

NPO 法人オルケスタ
理事 横山真司

事業名 「発達のカタハンドブック」

事業目的 「子どもに関わる大人の不安を解消し、子育てを楽しめる町づくりをしたい。」

少子化、核家族化、共働きの増加、習い事中心の余暇活動などにより、子育て環境は身近な相談相手や同じ悩みを共有できるママ友との交流が少なくなっています。インターネット等に情報は溢れていますが、子どもはそれぞれの個性に応じた対応が必要ですし、特に発達障害を抱える場合には難しさを感じることも多くあります。発達障害については、公的なフォロー（相談機関・乳幼児健診）の充実、早期発見・早期介入が進んでいますが、その後のフォローの専門性は十分とは言えません。保護者の不安解消に、専門的な支援体制のさらなる充実が必要です。また、発達障害や知的障害をもつ子どもは、保護者や地域社会の障害に対する不理解や誤解により、不適切な養育環境・対応をされている場合が多くあります。子どもの健やかな育ちを保障するためにも、発達に対する知識と地域社会に根差した身近な相談機関が必要です。

そういった課題に対して、平成 29 年度に市民公益活動支援補助金を活用した子育てサロン（発達についての講演会）を開催し、保護者や子育て・福祉関連の事業者などに多数参加いただきました。子育てサロンは好評をいただき、参加された中から多くの子どもが弊法人が運営する療育施設の利用に繋がりました。また、既存の機関との繋がりが出来たことで、地域福祉のネットワークの一員として、現在も多くの子どものケアに携わっています（市内 約 60 名程度）

一方で、子どもが生活のほとんどの時間を過ごす幼保こども園・学校では、フォロー体制が十分ではない環境の中で保育士や教諭の方々が個人的に多くの労力と時間を割いて対応をされており、その身体的心理的負担は小さくありません。日常的に先生方のサポートができる環境作りが喫緊の課題といえます。

このような現状に対し、現場の先生方が支援の手立てを考える際の一助となり、また保育教育現場レベルの相談できる機関とのネットワーク作りを目的に、本事業を実施いたしました。

事業経過

平成 29 年度実施の子育てサロン事業に引き続き、公益活動支援補助金を使って発達の流れと必要な関わりをまとめたハンドブックを 400 部作成し、市内の全幼保こども園（24 園）、小学校支援学級（13 校）、相談支援事業所（11 事業所）、放課後等デイサービス（12 事業所）、弊法人が運営する療育施設利用者（約 120 人）に配布しました。

令和 3 年 4 月 29 日と 5 月 29 日に、そのハンドブックを教材にした研修会をオンライン開催し、幼保こども園の先生方を多数含む 70 名程に参加していただくことが出来ました。

うまくいった点

- ・幼稚園の新人教育に使うためにと、追加配布の希望を受けた。
- ・弊事務所との契約時に保護者に配布することで、子どもにとって適切な環境が早期に整えられた。
- ・発行物があるということで、保護者・他機関との信頼関係を構築することができた。
- ・市内に広く配布し、その後の弊法人事業（学校訪問、幼保こども園訪問）において活用することで、子どもの発達についての共通理解がスムーズになった。
- ・オンライン開催、アーカイブ配信でより幅広い人に参加していただけた。

※アンケートを末に記載

うまくいかなかった点

- ・会場が閉鎖されたためにオンライン開催になり、直接的な関係性を作ることが出来なかった。

事業効果

- ・保護者・支援者から継続的に専門的な助言を求められている。
- ・幼保こども園・小学校から、発達支援のニーズがある子ども・保護者に、弊法人への紹介があった。
- ・弊法人の専門性が理解され、障害福祉サービス事業所から相談を受けた。
- ・広く市内に配布したことで、法人の活動の理解が広がり、おもちゃの寄贈を受けた。
- ・幼稚園から新人職員への配布を目的に追加希望をいただいた。
- ・研修会に幼保こども園の先生、小学校の先生からの参加が増えた。

今後の展開への期待と課題

現在も、弊法人の療育事業を利用している子どもの保護者や関わる支援者などへの配布を継続し、子どもについての共通理解の輪を広げている。保護者と支援者が同じ方向を向いて子どもと関わることで、母子関係が安定し、子どもにとってより良い環境で発達が促されることに繋がると思われる。今後は、現在ある子育てに関する福祉資源との協同を図りながら、一層の啓発に努めたい。河内長野市に子どもの発達の理解が広がり、安心して子育てが出来る環境が整うことを願う。

アンケート結果（一部抜粋・回答はすべて保育士より）

1, 研修の感想

- 発達から学ぶ視点は優しさに溢れていて大好きだなあと感じました。大人がどう関わるかは年齢関係なく、本人が主人公であるという事を忘れずに環境からできる工夫を考えていきたいです。
- 正常発達を知ることその子の小さな成長にも気づくことができるということや、子ども自身が困っていると感じている事にも多様な原因が在ることなどなど、色々な話が頭を駆け巡りました。そうだったんだと気がついたことを整理して実践できるよう、もっともっとお話が聞きたかったです。参加されていた他の方のお話も興味深く、悩んでおられることは一緒だなと共感しました。
- わかりやすいお話で療育に関わるときの基本的な姿勢というか考え方を再認識しました。田中昌人先生の書籍をこの連休中に読もうと図書館で借りたばかりで、横山先生のお話を思い出しながら読みたいと思います。
- 人それぞれ感覚は違うし、その感覚の違いを受け入れた上での言葉かけや接し方をすることによってこどもは成長していくんだなあと感じました。難しいことではあると思いますが、できるだけその感覚の違いを受け入れていくことを日々の保育の目標にしようと思います。

2, 講師、弊法人へのメッセージをお願いします

- 日々悩みながらもなかなか自分のスキルをあげることができません。このような機会を作ってくださいに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。横山先生の子どもたちに対する思いが伝わりまた明日も頑張ろうと力をいただきました。
- ぐるぐるの先生方が子どもに寄り添った療育をされている姿が想像され、先生方の実際の療育にとっても興味を持ちました。また参加させていただきたいと思いました。ありがとうございます。

○こどもたちのいっぱい笑顔を守ってくれるミカタをたくさん育てていほるんだろうなと、スタッフとの関わりのお話も聞きたいです。

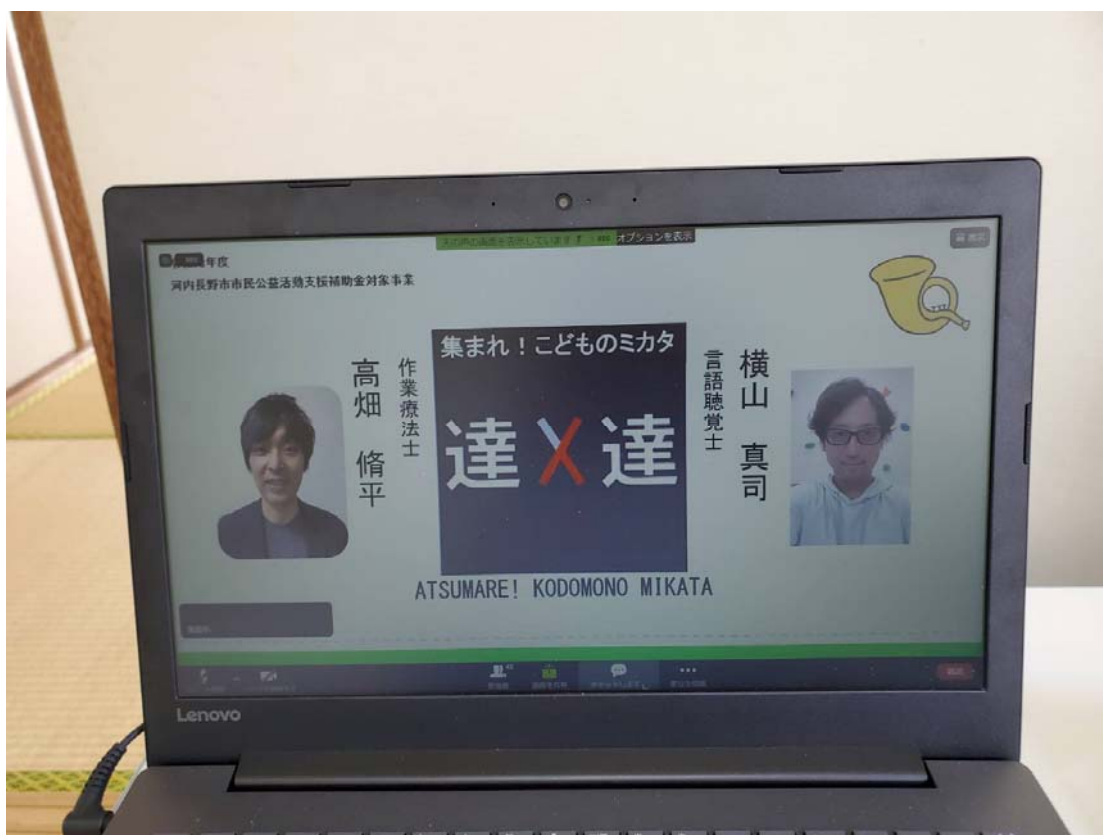
○自分が担任させてもらっているクラスの子の中にぐるぐるに通っている子がいますが、こんなに素敵な考え方やこどもへの接し方をされている方たちにいてもらえていることが、すごく羨ましいというか、ラッキーと言うか、幸せなことだなあと感じました。

・「発達のみカタ ハンドブック」

ミカタには「子どもの発達の診方を知れば子どもの味方になれる」という意味が込められています。



- ・ハンドブックの内容を基にした研修会「集まれ！こどものミカタ」（オンライン開催）は保育士、小学校教諭、療育施設職員など 70 名以上の方に参加いただきました。



- ・国連が制定した“世界自閉症啓発デー”とそれに伴う“発達障害啓発週間”に合わせて推薦書籍とともに図書館に寄贈しました。

